

検証委員会聴取記録

○聴取日:平成29年5月14日(日)11:00~12:00

○内容:学校の対応等について

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
事務局	紹介	・委員及び執行部を紹介		
委員	質問	・事故当日の学校の対応について、説明願う。		
			参考人B	・事故当日の対応について、当日の配布資料に基づいて説明。(途中、参考人Aが補足説明)
委員	質問	・今回の事故に限らず、このような事故が発生した際の連絡体制について、確認したい。		
			参考人B	・こうした大きな事故が、学校外で起きた場合、現場にいる顧問が保護者に連絡することになっている。もちろん、学校にも連絡が入ってくることにしている。
			参考人A	・学校の体制として、命にかかわるものは、すぐに教頭に連絡することになっている。 なお、命にかかわるものでない場合で、土日の活動の場合は、月曜日の朝に伝えることになっている。 ・今回の場合は、消防署から情報を得て、学校から保護者に連絡した。
			参考人B	・今回の場合、消防と参考人Gからの情報に違いがあったので、すぐに保護者への連絡ができなかった。
委員	質問	・事故当日、那須塩原警察署から、生徒と保護者の携帯電話番号を集めてほしいと依頼されたという説明があったが、参考人Gは情報として生徒と保護者の連絡先を把握していたか、確認したい。		
			参考人B	・事故後、パソコンで確認したものだが、登山の参加申込書をもとに作成した(携帯ではなく、家の電話番号が記載された)連絡先一覧がある。
委員	質問	・その資料(参加申込書 連絡先一覧)は、どこにあるか		
			参考人B	・未提出の資料なので後で提出する。
委員	質問	その情報は、当日参考人Gは持っていたか、確認したい。		
			参考人A	・持っていたかどうかは不明。
委員	質問	・パソコンには入っていたようだが、学校は一覧表がすぐに見られる状況ではなかったという理解でよいか。		
			参考人A	・そのとおりである。
委員	質問	・第一報は参考人Gではなかったということではよいか。		
			参考人A	・参考人Gではなかった。
委員	質問	・第一報が参考人Gではなかったということについて、どういう事情であったと把握しているか、確認したい。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人A	・参考人Gは、ロッジで搬送された生徒の顔と名前の確認をしていたので、連絡が取れる状況ではなかったと、聞いている。
委員	質問	・学校は、現場の顧問からではなく、間接的に警察や消防などから情報を得ていたということになるか。		
			参考人A	・そのとおりであるが、現場の顧問とも何度かやり取りはしている。
委員	質問	・訓練ではあるが、登山活動を行うにあたり、計画書（メンバー、連絡先）を作って、留守本部（学校になると考えられるが）へ提出していくことになると思うが、どうなっていたか、確認したい。		
			参考人A	・（提出された資料を提示し）この計画書のみであった。メンバーは記載されているが、連絡先の記載はない。
委員	質問	・講習会全体の計画書（示されたもの）はあるが、大田原高校として作成する計画書（日程、食糧、装備品、活動内容）については、どのように学校に伝わっていたか、確認したい。		
			参考人A	・そのような計画書は見えていない。
			事務局	・大田原高校が個別の計画書を作っているかは確認していないが、一部の学校では「しおり」のような形で作成しているものがあると聞いている。
委員	質問	・3日目の1班については、参考人Qと教諭Aが入れ替わっているが、その変更をいつ、どのように把握したか、確認したい。		
			参考人B	・講習会の少し前に把握していた。参考人Qは、生徒会の担当であることから、27日の新入生オリエンテーション業務のために変更になっている。
委員	質問	・そのことが、計画書に反映されていないということでしょうか。		
			参考人B	・計画書には反映されていない。
委員	質問	・教諭Aの顧問歴については、学校としてどう把握しているか、確認したい。		
			参考人A	・本校に赴任するまでは山岳部顧問の経験がない。剣道部と兼務し、普段は剣道部の第2顧問として指導に当たっていた。 山岳部の土日の大きな行事（大会等を含む）にはすべて参加（白根山（冬）、朝日岳（雪あり）、北岳）していたと思う。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	・参考人Qが3日目には帰ること、代わりに1班を担当することを教諭Aは把握していたことになるか。		
			参考人B	・把握して参加しているはずである。
委員	質問	・参加した生徒のうち、負傷した（大高の）生徒の状況はどうなっているか、確認したい。		
			参考人B	・負傷した生徒は、全て退院した。
委員	質問	・現段階で、通院している生徒はいないか。		
			参考人B	・生徒a（ふくらはぎの筋肉断裂、松葉づえ）は、まだ通院中である。 ・生徒bは、週1回⇒月1回の通院となった。
委員	質問	・足が麻痺しているとあったが、後遺症か。		
			参考人B	・生徒bは、血栓が徐々に小さくなってきて、神経へ圧迫が少なくなってきた。回復してきている。
委員	質問	・死亡した生徒については「心肺停止」の記載があるが、複合的な要因として、肋骨骨折や低体温症などについては把握しているか。		
			参考人A	・聞いていない。
委員	質問	・全く負傷しなかった生徒はいるのか。		
			参考人A	・部員の中には不参加1名、前日下山した1名の計2名がいる。
委員	質問	・活動内容の変更については、現場と専門部、高体連、学校とで、どういう報告、連絡、相談体制になっているのか、確認したい。		
			参考人A	・学校には、無事に帰った時に連絡がある。過去に調理中の火傷をした時も連絡を受けたことがある。活動内容の変更等について相談を受けたことはない。
委員	質問	・今回のラッセル変更したことは、いつ把握したか。		
			参考人A	・事故後、報道により把握した。
委員	質問	・大田原高校の生徒の事故後の様子と学校の対応について、説明願いたい。		
			参考人A	・事務局から、生徒のケアを考えると、カウンセラーをすぐに派遣することの連絡があった。 ・3月29日に全校集会を実施。生徒は落ち着いた様子で話をよく聞いていた。その後もパニックになった生徒はいない。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人B	<ul style="list-style-type: none"> ・29日の説明会では、生徒及び保護者を対象にスクールカウンセラーが話をした。 ・生徒にはアンケートの実施及び担任による分析を行い、配慮を要する生徒の確認をし、個別に対応した。4月末段階で18名がカウンセリングを受けた。 ・2日目に下山した生徒が1週間休んだが、先週から少しずつ登校するようになった。担任も家庭訪問をしている。
委員	質問	・アンケートを実施したのはいつか。		
			参考人B	・4月10日の始業式に、クラスで配布して実施、担任が回収した。
委員	質問	・高体連と学校との関係を確認したいが、今回の行事は、高体連主催なので、学校は報告を受けるという認識でよいか。		
			参考人A	・私は校長であり、登山専門部長でもあるので、知っていなければならない立場にある。
委員	質問	・高体連でも様々な専門部があるが、登山専門部については、緊急連絡網（保護者あて）の作成や管理は、どういう扱いになっていたか。		
			参考人A	・各学校に任せた状態になっている。
委員	質問	・大田原高校としては、緊急連絡網は作成していないということでしょうか。		
			参考人A	・緊急連絡網として作成したものがあるか、わからない。一覧表しか見ていない。
委員	質問	・当日12:40に職員打合せを行ったようだが、これは全職員であるか。		
			参考人A	・電話や正門での対応者を除く全職員である。
委員	質問	・これは事故発生時の決まり事なのか、緊急事態だからなのか、確認したい。		
			参考人A	・緊急だからである。
委員	質問	・何かあったら、まずは教頭に連絡が入り、緊急かどうかの判断をし、職員を招集するという理解でよいか。		
			事務局	・この日は勤務日なので、不在の職員に対して招集をかけるという意味ではない。
			参考人A	・27日は新入生オリエンテーションなので全職員が出勤していた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	・通常の学校行事（遠足等）と講習会とでは違うという話があったが、山岳部の通常の登山について、個別の活動と今回のケースでは形態が違うという認識でよいか、確認したい。		
			参考人A	・大会と大会でないものはちょっと違うという認識である。
委員	質問	・大会であろうが、講習会であろうが、参加するにあたっては計画書を作成し、学校長が許可することになると思うが、どうなっていたか、確認したい。		
			参考人A	・（資料を提示しながら）この講習会の計画書しか把握していなかった。
委員	質問	・顧問職員については、出張伺いで手続きをしていたということか。		
			参考人A	・そのとおりである。
委員	質問	・顧問が詳細な計画書を作成していたとしても、そこまでは求めているという理解でよいか。		
			参考人A	・そのとおりである。
委員	質問	・今回、「しおり」のような詳細な計画は作成していない、作成していないものは確認できないという理解でよいか。		
			参考人A	・そのとおりである。
委員	質問	・通常の山岳部単独での参加の場合は、詳細の計画書が提出されているのか、確認したい。		
			参考人A	・もう少し詳しいものが提出されていたものと思う。時間や場所などが明記されたものであると思う。
委員	質問	・通常の山岳部の活動は頻繁に行われていたのか、確認したい。		
			参考人A	・学校（山岳部）独自のものは年3回あったものと思う。新入部員歓迎（那須山）、夏（北岳）、今回の講習会の3つが主なものである。このほかは大会となる。
委員	指示	・その3つの活動の計画書について、学校から事務局あてに提出いただきたい。		
			参考人A	・了解した。
委員	指示	・様々な大会で、計画書は審査の対象になっており、非常に重要視されている。通常の活動でどうなっていたのかは、またお知らせいただきたい。		
			事務局	・審査会を通してしているので、計画書は提出されていると思われる。
委員	質問	・計画書は学校から提出していただくことでよいか。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人B	・ 家宅搜索で、ほとんどの資料を提出しているので、学校には残っていない状況である。
委員	指示	・ 事務局から提供してほしい。		
委員	質問	・ 学校単独の活動は計画書に目を通していたという理解でよいのか。		
			参考人A	・ 学校単独の活動は審査会で許可されて活動となるが、今回は高体連ということで免除されていたようである。
委員	質問	・ 今の山岳部の状況はどうなっているか。		
			参考人B	・ 活動は自粛している状況である。 ・ 一人一人が体力トレーニングを行ったり、ミーティングを行ったりしている。
委員	質問	・ 今、部員は何名になっているか。		
			参考人B	・ 1年生が2名入って、合計7名となっている。

検証委員会聴取記録

○聴取日:平成29年5月14日(日)13:00~14:30

○内容:高体連・登山部会の体制、春山登山講習会等について

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	高体連、登山専門部、登山計画審査会について説明を願う。		
			参考人 F	資料に基づき高体連の組織等について説明。
			参考人 A	資料に基づいて登山専門部の組織について説明。
			参考人 G	資料に基づいて、高体連登山専門部事業計画について説明。
			事務局	資料に基づいて登山計画審査会について説明。
委員	質問	春山安全登山講習会について説明を願う。		
			参考人 G	<ul style="list-style-type: none"> ・春山安全登山講習会は、30年近く同じ形で実施している。委員長を引き継いで6年目だが3月下旬、春休みに入ってすぐに実施している。 ・1日目座学ののちスキー場へ移動し幕営、2日目雪上訓練、7時30分スタート10名程度5班編制で郭公沢という峠の茶屋の少し上の斜面を使って雪上訓練を14時頃まで行った。 ・3日目は例年なら7時出発で夏道を使って茶臼岳山頂を目指す訓練を行っているが今年は雪が多かったので中止し、スキー場周辺での歩行訓練に変え事故にあった。
委員	質問	春山安全登山講習会実施状況について抜けている年度もあるが。		
			事務局	・資料は登山部報より読み取れるもののみ拾った。
			参考人 G	震災の年だけ中止した。
委員	質問	7年前に雪崩のような事故があったとの情報がある。当時の状況がわかる方はいるか。		
			参考人 G	・当時委員長ではなかったが講師として参加していた。場所は郭公沢で、私は別の班で遠くから見ていた。
				・当時大田原高校で顧問をしていた。場所は郭公沢でもかなり上部の方である。時間は11時頃と記憶している。大田原高校の6名を教員3名ぐらいが引率していた。沢の上部で講習を行っていたが、下へ降りるときに傾斜が変わる部分だったので、ロープを出してロープで通過させる訓練を行った。若手の先生が先に下ってロープを張ろうとした際に、表層10cmぐらいのところが雪崩れた。下方にいた班の生徒と教員が雪崩れた雪に巻き込まれ流された。幸いにも怪我人はなかった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人 S	新聞で一部雪庇という報道もあったが雪庇ではなかったと思う。表層雪崩だ。雪崩れた瞬間は私は傾斜が変わるところだったので直接は見えていないが、破断面があってそこから流れた。下の方にいた生徒と先生はちょうど休憩中で座しているところを流され、ピッケルが何本か埋まってしまった。その後雪の状態に注意しながら別な場所で講習を続けた。次の日は予定通り茶臼岳に登ったと記憶している。雪崩の情報は専門部で共有し、雪崩があった斜面での講習はその後行っていない。その際、高体連の本部や県教育委員会への報告はなされてなかった。滑り台を流れるような状態で流された。それ以前にもそのあたりで講習は行われていたが、幸いにも春先のしまった雪だったので雪崩は起きなかった。その年は前日ぐらいに降雪がありその降雪の部分が流れたと思われる。
委員	質問	高体連・現場・学校ではどのように連絡体制をとっていたのか。		
			参考人 F	<ul style="list-style-type: none"> ・高体連には35の専門部があるので、重大事象があった場合、委員長から高体連の理事長に連絡が入り、その後高体連会長に連絡する。 ・委員長は専門部長も報告をする。 ・正確な文章としては無い。
委員	質問	保護者へ連絡は各学校に任されているのか。		
			参考人 F	・引率教諭が各学校から来ているので必ず学校へは通報はなされる。
			参考人 A	まずは委員長から部長に報告することになっている。保護者へは担任か引率顧問から行うが、はっきりとは決めていなかった。
委員	質問	登山計画審査会に講習会が審査の対象になっていない理由は何か。		
			事務局	審査会も講習会もかなりの年月が経っている。高体連の専門部が主催している計画については審査会を通過していないのが慣例。多くの目を通して計画されているものなので大丈夫であろうということと聞いている。
			参考人 F	大会には補助金がついているので報告の義務がある。講習会は専門部が独自に開催している。今回は登山ではなく訓練を目的とした講習会だったので審査会に申請していなかったのでは。
委員	質問	各講習会が終わった後に報告はされてないのか。		
			参考人 F	講習会等は年間計画には記載されている。大会は事故報告書は存在するが、研修会・講習会についてはない。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	・緊急時の体制は事前に準備していたのか ・警察・消防への通報計画はどうなっていたか。		
			参考人G	・要項を事前に那須の派出所に提出した。 ・緊急連絡網は作成しているが、今回は機能しなかった。
委員	質問	保護者への連絡体制はどうだったか。		
			参考人G	各学校に任せていた。
委員	質問	・年間計画はいつ、誰が作成しているのか。 ・要項の承認はどこでされるのか。		
			参考人G	・講習会の年間予定は前年の11月の専門委員会で作成し、次年度の総会で決定している。 ・取りまとめ責任者が事業ごとに要項の原案を作成している。専門委員会を確認し、総会で決定している。
委員	質問	平成22年の講習会には弱層テストが入っていたようだが、毎年必ずやりましょうというものではないのか。		
			参考人G	例年各班で講師の先生方がやってくれていると思うが資料には入っていない。
委員	質問	7年前の10cmぐらいの雪崩で、どのぐらいの幅で、どのぐらいの長さであったのか。		
			参考人T	標高は1600mぐらいの高さ。ザイルを張って雪崩が起きた地点とほぼ同じ目線で目撃した。沢の最上部の表層10cmぐらいの雪が、ほぼ垂直に近い斜面をどさっと落ちて、細く長く、下へ下へと流れていった。休憩中の班のザックや、ピッケルなど荷物が流れていくのが見えた。ピッケル4本ほどが回収できなかった。少なくとも2、3名の生徒が座っている状態のまま、滑り台を滑るような姿勢で5、60mぐらい流れた。上から見る限りでは、上半身まで埋まってた生徒はいなかった。全長は100mから150mぐらい。雪崩の幅は2から6mぐらい。発生は11時30から12時9分の間。
委員	質問	・地図ではかなり急な斜面に見えるが。 ・天候はどうだったか。 ・降雪はいつか。		
			参考人T	急になったところでザイルの必要はあった。当日の朝はマイナス6度。風は弱く、日当たりの良い斜面、雪はザラメ状態。降雪は少なくとも前日ではない。

検証委員会聴取記録

○聴取日：平成29年5月14日(日)14:30～16:15

○内容：事故当日の状況や動き等について

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	事故当日の各班の動きについて確認したい。		
			参考人G、 I、J、 K、L、 O、P	資料に基づき本部及び1班から5班の動きを時系列に説明
委員	質問	事故当日のレストハウス前での指示（具体的な言葉）、内容等について確認したい。		
			参考人O	全体的な指示は参考人K、参考人Gが行った。全体的な指示の中で、危険箇所の説明がなかったので、私が「スキー場の奥の左側の斜面は危険である」ということを伝えた。
			参考人G	参考人Kが指示を行った。
			参考人K	3人（参考人G、参考人O、参考人K）で相談して講師全員、そして生徒を含む全体に以下の内容を伝える。 ①活動内容の変更 ②足跡のついていないところでの活動 ③活動場所はスキー場ゲレンデ及び樹林帯で行うこと ④スキー場奥の左側の斜面は危険であること ⑤歩行訓練（ラッセルという言葉を使用した が、キックステップを使いながらの歩行訓練の意味合い）を行うこと。
委員	質問	ノートレースの雪面を歩くことをラッセルとも言うので、参考人Kが指示した内容でよろしいと思うが、他の先生の認識はどうだったか。		
			参考人J	ラッセルという言葉であったが、かき分けて進むというイメージではなかった。
			参考人P	ラッセルという言葉であったが、かき分けて進むというイメージではなかった。
			参考人U	「訓練」という言葉がつくのとつかないのとはイメージが違う。
委員	質問	事故当日、積雪はどれくらいであったのか。		
			参考人K	樹林帯も割とスムーズに進むことが出来たし、ゲレンデも膝まで雪があったという認識はない。
委員	質問	前日の訓練場所はどこか確認したい。 「スキー場周辺」という言葉が出ていたが、どこからどこまでという共通認識はあったか。 無線機は何を使っていたか。 弱層テストの様子について		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人K	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の活動場所は峠の茶屋の尾根上の斜面で行った。全ての班が見渡せる場所で実施した。 ・「スキー場周辺」と説明したが、はっきりとどこからどこまでの範囲で実施するといった統一した共有認識はなかったと思う。 ・弱層テストは実施要項の内容の中に記載はないが、その年その年によって実施したりしなかったりである。今回は2日目に簡単に実施した。3日目はテストまでは実施しておらず、2日目のおさらいとして雪質を確認してみようということで、樹林帯の中で雪を掘って断面を生徒に確認させた。
			参考人G	無線機は、業務用の〇〇〇というメーカーのものを使っている。(登山専門部所有)
委員	質問	少し登り始めたところとあるがどれくらいか。		
			参考人K	斜度が変わって、ほんの少し登り始めたところである。
委員		風についての意見がそれぞれの班で違う。(班のいた場所が違うからだと思うが)		
			全体	吹雪いていたという認識はない。
委員	質問	事故が発生直後、無線での連絡がうまく取れなかったが、スマホが使えなかった先生方はどれくらいいたか。		
			参考人G	常に無線を身に付けてはいなかった。身に付けている以外は宿の部屋のカゴの中、もしくは車の中に置いてある。最後に確認できたのは車の中である。スマホには先生方からの着信はなかった。
			参考人K	流された際に、体を木に打ちつけてしまい、胸ポケット内のスマホは折れてしまっていて使えなかった。
			参考人O	無線を常に使える状態にして活動していた。ザックの中に携帯は入れていた。携帯が事故直後使えたかどうかは分からない。
			参考人I	スマホは動かない状態であった。
委員	質問	委員長が無線を手にした後は通じていたか。		
			参考人G	通信が途絶えることもあったが、無線機は使えて参考人Iと連絡を取り合うことが出来ていた。
委員	質問	直接、警察や消防に連絡するという判断は出来なかったのか。		
			参考人O	無線がすぐとれる状態だったので、携帯電話でということは考えなかった。
			参考人I	おそらく私が連絡を取れる状態にあったと思うが、あの時は判断できずに本部へ向かってしまった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	事故当時どうすればよかったのか、どうしてたら事故は防げたのか、意見をお聞きたい。		
			参考人F	その場での状況判断が大切である。例年踏襲はいけない。パニックに陥った場合のために幾重にもチェックする危機管理体制を築かなければいけない。組織の中に第三者的な立場で指導助言できる方を入れるべきである。
			参考人A	例年通りや現場任せだったのがいけなかった。30年もやってきたんだからという油断があったと思う。計画変更や内容変更があった場合にはチェックする機能をもつ体制にしなければいけない。
			参考人K	状況判断が甘かった。もっと多くの方々に判断を仰いでいればよかった。
委員	指示	本日の記録をまとめてもらって、本日の委員4人に送って下さい。4人で確認し、分担して第2回の検証委員会で報告、問題点をそれぞれ指摘させていただく。検証委員会の資料の回答者のお名前は分からないように、講師Aとか、引率B等でよい。		
委員	指示	大田原高等学校が登山計画審査会に提出した計画書を資料として提出願う。		
委員	指示	矢板東高の生徒がゲレンデで撮影した写真を資料として提出願う。		
委員	指示	県立学校管理規則のデータを用意下さい。		
			事務局	了解した。 記録をまとめたものを4人の委員の皆様に送付する。 登山計画書は事務局で用意する。 写真については矢板東高にデータを確認する。